

# 本校における QC 検定の導入・活用について

北海道帯広工業高等学校

電子機械科 今井 正仁

## 1. 学校紹介

本校の所在地である帯広市は、北海道東部の十勝平野の中心に位置し、おもに農業が主産業の地域である。しかしながら、管内唯一の工業高校である本校の位置づけは大きく、地域に開かれた学校を目指し、各学科が様々な取組を行っている。

本校は昭和39年4月に機械科2間口、建築科1間口、土木科1間口の4間口で開校し、その後電気科の設置、機械科から電子機械科への学科転換、電子機械科1間口減、土木科から環境土木科への学科転換を経て、現在は、電子機械科、建築科、環境土木科、電気科各1間口の学校であり、今年が創立50周年という節目を迎える。卒業生は十勝管内をはじめ、北海道内や道外地域など様々な地域に就職をし、活躍している。

### ○校訓

「創造実践」 「協同責任」

### ○学校教育目標

- 1 自主自律の精神と豊かな人間性の育成をめざす
- 2 勤労を愛し責任を重んじる健康な社会人の育成をめざす
- 3 高い知性と実践力にみちた工業人の育成をめざす



## 2. QC 検定導入の経緯

他の工業高校と同様に本校も資格取得に積極的に取り組んでおり、各学科がそれぞれの特色を持ちながら資格取得指導を行い、生徒達は多くの資格を取得している。全国工業高等学校長協会のジュニアマイスター顕彰制度においても、多くの生徒が「ジュニアマイスターゴールド」、「ジュニアマイスターシルバー」の認定を受けている。QC 検定を導入した経緯は、新たに生徒の進路実現につながるような資格の取得をと学科内で検討していたところ、QC 検定のパンフレットとポスターが学校に届き、パンフレットの内容に興味を持った。正直その頃は恥ずかしながらこのような検定があることも知らなかったもので、まずはどのような内容の検定であるかを調べることから始まった。QC 検定のホームページから4級の手引きをダウンロードし内容を確認したところ、卒業後7割の生徒が就職する本校の生徒にとっては非常に重要な知識を学ぶことができると考え導入を決めたというのが経緯である。また、北海道内においてもQC 検定に取り組んでいる学校が少なかったのも導入の理由のひとつである。まずは自身が所属している電子機械科の生徒に実施を試みようと取り組んでいたが、他学科の生徒に対してもこの検定は有効であると考え、一緒に取り組みませんかと声をかけたところ2年目からは電気科が賛同し、検定に取り組むことになった。今後、さらに他学科への取組を進め全校での取組としたい。

## 3. QC 検定取り組みの具体例

北海道内においての一般受験会場は札幌と苫小牧しかなく、本校生徒が一般受験をする場合には札幌を選択するが、特急列車で約2時間30分、交通費も往復で1万円以上かかり、午前中の試験であると前泊をしなければいけないなどの理由から生徒の負担軽減を考えて団体Bでの受験をすることにした。団体Bでの受験の場合は受験人数に基準があるため、導入当初は1年生を4級全員受験、2年生は希望者のみで併願受験可としたところ、団体受験の基準人数を満たすことができた。その後、日本規格協会よりパナソニックデバイス帯広(株)が団体受験を希望しているが基準の人数に達していないので、一緒に受験をしませんかという話があり、本校生徒にとってもこの検定に取り組んでいることをアピールできる機会と考え、企業と合同で試験を実施することにした。事前に日本規格協会とパナソニックデバイス帯広(株)の検定担当者と打ち合わせをし、試験会場はパナソニックデバイス帯広(株)会場として実施することとなった。25年3月の試験についても合同での試験を考えていたが、お互いの受験人数が多くなったため本校生徒は本校を会

場として試験を実施した。QC 検定は年2回実施されているが、学校行事や部活動等の関係で団体受験の人数を満たすことが厳しいため、本校は3月実施の試験において団体受験を実施しているが、一般試験会場の少ない北海道においては本校を受験会場とできるこの制度は生徒の負担も少なく、非常に有効な方法であると考えており、また企業の合同実施についても思っていたよりハードルが高くない。

本校における QC 検定の取り組みについては、検定に合格することも重要なことであるが、知識を身につけ活用できるような取組を目指している。試行錯誤中ではあるが現在は以下のような形で検定試験合格に向けた取組を行っている。本校では1年生を4級全員受験とし、2年生については希望者のみ3級の受験を基本としている。

#### ①受験者

平成23年度 電子機械科1年生39名、2年生34名

平成24年度 電子機械科1年生41名、2年生28名、3年生1名

電気科1年生40名、2年生41名

#### ②学習方法

電子機械科1年生・・・課題研究1単位、生産システム技術2単位において冬季休業明けより授業展開

電子機械科2年生・・・冬季休業明けより週2～3回の放課後講習および添削指導

電気科1，2年生・・・冬季休業明けより専門科目で対応

#### ③使用教材

- ・4級テキスト（日本規格協会ホームページ）
- ・品質管理の演習問題と解答 QC 検定試験4級対応（日本規格協会）
- ・QC 検定4級対応問題・解説集（日科技連出版社）
- ・QC 検定受験テキスト3級（日科技連出版社）
- ・品質管理の演習問題と解説手法編 QC 検定試験3級対応（日本規格協会）
- ・QC 検定3級対応問題・解説集（日科技連出版社）
- ・過去問で学ぶ QC 検定3級（日本規格協会）

#### 4. 受験者の状況・実績

##### ① 4級

実施回		電子機械1年	電子機械2年	電気1年	電気2年
第13回	受験者	39	30	—	—
	合格者	39	30	—	—
	合格率	100%	100%	—	—
第15回	受験者	41	—	40	41
	合格者	41	—	40	39
	合格率	100%	—	100	95.1

##### ② 3級

実施回		電子機械2年	電子機械3年
第13回	受験者	25	—
	合格者	24	—
	合格率	96.0%	—
第15回	受験者	27	1
	合格者	26	0
	合格率	96.3%	0%

本校生徒にQC検定を導入して2度の試験を行った結果であるが、思った以上の成果が出ている。取組方法については現段階では試行錯誤している段階であるが、成果が出ているためこのような取組を継続していきたい。また、本校の生徒に品質管理について、検定を通じて理解させることを目的として今後も継続していきたいと考えており、今後はさらに他学科の生徒にも対象を広げて受験人数の拡大に努めていきたい。

#### 5. 検定に期待すること

本校の生徒が就職試験においてQC検定について質問を受けたとの報告があり、企業にとっても品質管理に対する重要性が高くなってきているものと考えている。また、卒業生

が来校した際にも、現在は品質管理の勉強をしているという話を聞き、本校の取組を紹介すると高校生の時に勉強し、資格を取得したかったと話をしていた。品質管理の考え方は様々な分野に使われると感じており、QC 検定の受検者数が年々多くなっていることから必要な資格であるものと考えている。工業高校の生徒にとっては必要な知識であると考えている。また、品質管理を学ぶことは就職する生徒の働くということに対する意識向上にもつながっていると考える。

北海道は広い地域であるにもかかわらず、一般試験会場が現在は札幌と苫小牧のみである。団体受験を希望しても人数が集まらず団体受験ができないという話を聞いたことがある。本校のように企業と合同で試験を実施する方法もひとつの手段である。企業との合同実施となるとハードルが高いと感じてしまいがちになってしまうが、実際に合同での団体受験をするための手続き等は難しくはないので、今後検討している学校があれば参考にさせていただければと思う。

最後に、本校では QC 検定をすべての学科が取組を検討し、生徒の就職への意識向上を目指していきたい。

以上